

令和5年  
7月-9月

No.79

ちばしんきん

# 景況レポート

NEWS report



Real Estate



Wholesale Trade



Business trend



Manufacturing industry



Retail Trade



Construction



Services

## INDEX

- 企業Interview  
グリーン・エコ 株式会社 …… P1・2  
千葉オイレッシュ 株式会社 …… P3・4
- 地域景気Report  
全業種 …… P5    サービス業 …… P7  
製造業 …… P6    建設業 …… P8  
卸売業 …… P6    不動産業 …… P8  
小売業 …… P7    特別調査 …… P9
- 支店長の横顔  
富津支店支店長 …… P10



千葉信用金庫

# グリーン・エコ 株式会社

## 経営にも環境にもアイデアを 産廃事業に眠る尽きない可能性

### 企業と環境の相互利益、静脈産業の醍醐味

グリーン・エコ株式会社は、リサイクルのコンサルティング及び産業廃棄物の収集運搬事業を手がける会社だ。

社長の田淵浩太氏は、環境コンサルティングや廃棄物処理事業を行う会社で10年ほど経験を積んだ後、2012年に独立して同社をスタートした。創業時は、田淵氏自らの手で取引先を新規開拓していったという。

「産業廃棄物は回収場所や輸送距離、処理方法などの条件があるため、必ずしも大が小を兼ねるわけではありません。ちょっとした創意工夫で新規企業でも参入できるし、差別化が図れる業界です。中小零細企業、大手問わず、産業廃棄物はあらゆる業種から多種多様なものが出ます。そして、どの企業も廃棄物処理に関しては、コストダウンを意識しています。良い提案をすれば取引ができるのが、この仕事の面白みです」。

設立当初、食品系廃プラスチック等の産廃物をこまめに回収してほしいというニーズが多かったという。それまでの大手業者は、コンテナがいっぱいになるまで産廃物を溜めておき、一度でまとめて回収する方式だった。そこで同社は計量器搭載のパッカー車を用意、回収する廃棄物の重量を推定しながら数社を巡回することで、少量でも週3~4回回収できるサービスを実現した。

「場内スペースが確保でき、臭気などの問題も解決して、安全・衛生面でお客様には喜ばれました。回収時にすぐ伝票を出せるので、コストダウンが提案できるのも強みです」。

同じ品目を数社回って回収するルート回収の他、一社から同時に複数品目を回収する相積み回収なども行い、顧客の要望に即した最適なサービスを提案することで、徐々に事業を拡大していった。直近5年では、事業の売上規模は2倍以上に。取り扱いエリアも千葉のみならず、茨城、埼玉、東

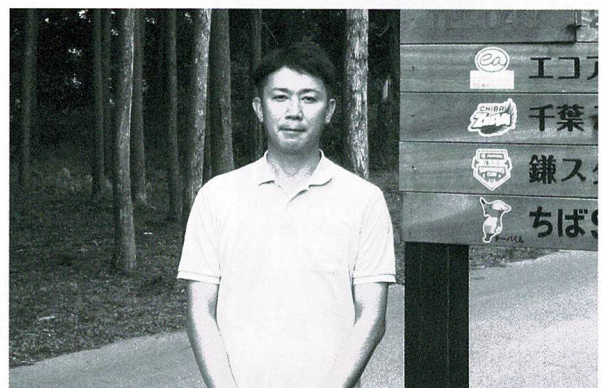
京と拡大し、経営は順調に軌道に乗っている。食品残渣や汚泥、鉄くず・古紙・段ボール等などの有価物、木クズ、廃油など、収集する品目も多岐に渡る。回収した廃棄物はそれぞれ処理工場に運搬しリサイクルされる。

「創業当時は、まだまだお客様が処理費を支払い、中間処理後にリサイクル化されるのが主でした。その中で業界の垣根を越えて行政や異業種の方々と連携し、多量に排出される廃棄物を有価物に昇華できたときは、なんとも言えない喜びがあります」と田淵氏。

再資源化への挑戦はもちろん、コストダウン、業務効率の良い回収ルートや増トン車輛による運送効率向上の追求など、自社の業務内容についても常に細かな改善を繰り返す。

「従業員の通常業務がSDGsにつながるように心がけています。そのために燃費管理等のエコアクションも徹底しています。継続して実践し、人に伝えていくことが真のSDGsだと考えています」。

まさに環境経営を地でいく企業だと田淵氏は自負する。



代表取締役 田淵浩太氏

### 廃棄物リサイクルのその先へ

同社が現在力を入れているのが、「リユース」「リデュース」「アップサイクル」だ。2020年からは新規でリユース事業、翌年にはアップサイクル事業を開始、こちらも少しずつ売上シェアを伸ばしている。

アップサイクルとは、廃棄物にデザイン性やアイデアなど新たな付加価値を持たせ、アップグレードしてより良く生まれ変わらせること。原料に戻すリサイクルと異なり、元の製品の素材や形状をそのまま活かすのが特徴だ。

代表取締役 田淵浩太氏

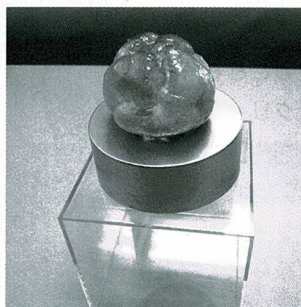
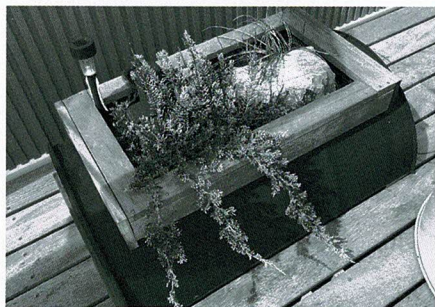
同社のアップサイクル製品は、ドラム缶ソファやケーブルドラムのテーブル、シュークリームでできたライトや風鈴など、独創的で個性が光る。リユース製品やアップサイクル製品は、自社ウェブサイトの他、大手フリマサイト等を活用して販売。北海道から九州まで幅広く購買され、映画の中で使用されたり、テレビでも紹介されたという。

田淵氏は、アップサイクル商品の開発には、異業種とのコラボレーションが不可欠、と話す。

「考えもつかなかった依頼をいただき、逆にお客様から教わることが多いです。ドラム缶が温泉街の水を受けるタン

クや居酒屋のセット、猫用ベッドにもなりました」。

仕入原価がほとんどかからず、ビジネスとして大きな可能性を秘めたアップサイクル製品。業界の垣根を越えて協業したい、と田淵氏は意気込む。



## パートナー企業グループへ、共感のネットワークを作る

廃棄物問題に正面から向き合う同社の今後のビジョンについて聞いた。

「当社から起業したい人材を応援し、パートナー企業のネットワークを築いていきたい。ライバルになる可能性もありますが、競争の中で当社も成長できます。千葉県内中心にパートナー企業を増やして、共存共栄していく構想です」。

経営者として、行動や態度で示すことで周囲の共感を得、自身は人を信用し信頼していきたいと語る田淵氏。実際、

2019年に誕生した(株)グリーン・エコ・パートナーズは、リデュース中心に廃棄物を減らす事業を行う、同社から独立したパートナー企業だ。

「廃棄物処理事業から再生工房のようなものを自社で構えるのも面白い。そこを高齢者や外国人、障がい者の方でも作業できる場所にできれば、新たな雇用も期待できます」。

廃棄物と経営をめぐるポジティブなアイデアは、まだまだ尽きそうにない。

企業  
DATA

### グリーン・エコ 株式会社

住所：千葉県千葉市若葉区千城台北 3-19-1

TEL：043-312-5858

創業：2012年4月

URL：<https://green-eco-kk.com>



更科ECOBASE